日経平均株価
２万８９４１円５２銭
▼１１６円５９銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
１９５９．１９
▲０．４９（前日比）

株式市場新聞

www.marketpress.jp

2021
6/7
月曜日

発行元　株式会社 株式市場新聞社
〒530-0005
大阪市北区中之島４－２－２８甲南アセット中之島ビル
TEL 06-6105-1904

夏の「ＩＰＯ」が熱い!!

ワンダーPやアイパートナなど期待

セカンダリも高い投資効率

６月は１０日のワンダープラネット（４１９９）とテンダ（４１９８）を皮切りにプラスアルファ・コンサルティング（４０７１）まで計２２銘柄のＩＰＯ（新規公開）が控える。マザーズやジャスダックの新興市場は５月１０日から１７日までの大幅下落後の短期リバウンドを経て次なる物色の流れを探る動きになっているが、需給面での足枷がないＩＰＯは業態や将来性を考慮すればセカンダリーでの投資効率も高く、６月はＩＰＯに短期資金が集中しそうだ。

夏のＩＰＯの目玉は？

今年春のＩＰＯでは４月５日公開のオキサイド（６５２１）が公開価格２８００円に対して初値は６５４０円で、その後は９８００円まで急騰。４月１５日公開のサイバートラスト（４４９８）は公開価格１６６０円に対して初値は６９００円で、その後は１万１２２０円まで急騰するなど高初値形成後にさらに上値を追う銘柄が散見された。今夏のＩＰＯも時流に乗る業態と将来性を事前に確認しておけば、初値形成後のセカンダリーでも投資効率は高いと見る。

１０日にマザーズ公開のワンダープラネットはスマホ向けアプリの企画・開発・運営を行っており、公開株数も少ない小型案件であることから人気化する可能性が高い。同じく１０日にジャスダック公開のテンダもＩＴソリューションやゲームコンテンツを手掛ける業態で中型に近いことから高初値期待が高まる。

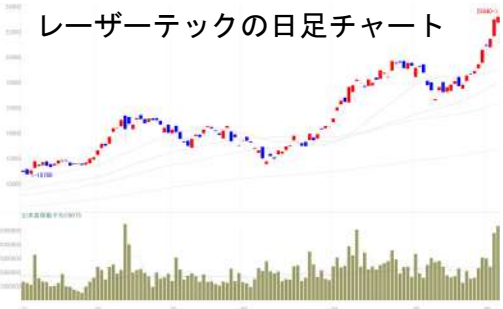
そして４月８日予定から延期になっていたアイ・パートナーズフィナンシャル（７３４５）は２３日にマザーズ公開、金融商品仲介業を基軸としたＩＦＡによる金融サービスの提供事業を行い、超小型案件であることから高初値が期待される。話題性では２５日マザーズ公開で日本トリム（６７８８）子会社のステムセル研究所（７０９６）。さい帯血の分離・保管を行う「細胞バンク事業」を行っており、再生医療関連として注目される。

日経平均日足チャート

前週の動意銘柄

レーザーテック2万円

収益力から半導体一番人気



週明け31日、**レーザーテック**（6920）が2万円大台に乗せ最高値を更新した。米ハイテク株高を受け半導体関連が人気を集めるなか、マスクブランクス検査装置で世界シェアを独占、EUV対応ではオンリーサプライヤーで収益力の高さから関連銘柄のなかでも一番人気となった。前期9割営業増益に続き、21年6月期も3割強の大幅増益を見込み、上振れ期待も強い。

ルネサス稀薄化懸念

ルネサス エレクトロニクス（6723）が急落。1億9641万7200株の公募増資と1億6707万8400株の売り出し、673万1300株のオーバーアロットメントによる売り出し、3633万7300株の新株を発行すると発表したことを受け、稀薄化と需給圧迫を懸念された。増資により発行済株式数は最大で11・5%増加。2185億1184万円の調達資金は、全額を英半導体企業買収に充当する。

川口化大幅上方修正

川口化学工業（4361）がストップ高。21年11月期業績予想について、連結営業利益で2億5000万円から3億5000万円（前期比4・4倍）へ大幅に上方修正した。主要製品のゴム薬品が自動車関連産業の減産の大きな影響は無く、順調な受注を獲得し売上増となっている。

インフォコム新規カバー

1日、**インフォコム**（4348）が急反騰。三菱UFJモルガン・スタンレー証券が5月31日付で「Overweight」、目標株価を6700円で新規カバーした。電子コミックが牽引し収益拡大持続で株価割安水準と指摘している。

ランシステム赤字拡大

ランシステム（3326）が大幅反落。未定としていた21年6月期の連結業績について、売上高49億5800万円（前期比28・7%減）、営業損失6億6000万円（前期8300万円の損失）と大幅減収で赤字拡大を見込んだ。新型コロナ感染長期化による消費低迷が店舗運営に大きなダメージを与えている。

フートレックS高

フートレック（2468）がストップ高。音声認識技術がユニロボットの新サービス「unirobot cloud-自動応答AIサービス」に採用されたと発表したことで、早期収益貢献と音声認識技術の一段の採用拡大を期待した買いを集めた。

公開価格の2・2倍

メイホーHDの初値

2日、**メイホーホールディングス**（7369）が東証マザーズ市場へ新規上場、公開価格2080円の2・2倍となる4630円で初値が生まれた。同社は建設コンサルタント業、補償コンサルタント業、測量業、地質調査業、人材派遣事業、警備業、建設業、介護事業などを営む子会社などの経営管理とこれに附帯する業務を行う。

正直じいさんの株で大判小判

半導体関連と周辺銘柄

前週の東京市場は米国で重要経済指標の発表が相次ぎ、インフレ懸念再燃への警戒感から上値は重いものの、ワクチン接種加速による経済正常化期待からJR株や私鉄、空運など景気敏感セクターに買いが広がり、底堅く推移しました。トヨタが連日で最高値を更新し相場全体を引っ張る一方、レーザーテックも新値を追い、バリュー優位のなかでも半導体関連は人気を集めています。週明けは米雇用統計を受け長期金利と米株の反応を見極めたうえでの対応となりますが、週末にメジャーSQを控え、膠着感の強い展開が続きそうです。

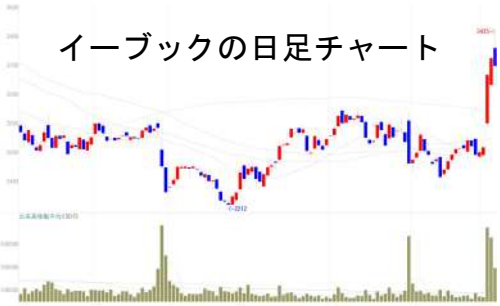
推奨銘柄もア**ドバンテスト**（6857）をはじめ半導体関連と周辺銘柄に動きが出ており、なかでも**シキノハイテック**（6614）は信用規制がかかったにもかかわらず高値圏で強い動き。引き続き出直りから高値を目指す銘柄で値幅を狙う考えです。

花咲 翁

イーブックS高で新値

LINEマンガ運営会社と提携

イーブックイニシアティブジャパン（3658）が続騰、ストップ高まで買われ年初来高値を更新した。2日、「LINEマンガ」を運営するLINE Digital Frontierと電子書籍事業における業務提携を行うと発表。今年度後半に「LINEマンガ」のバックエンド業務の受託を開始する予定で、収益貢献が期待された。



メディアドウ競合懸念

メディアドゥ（3678）が急落。イーブックイニシアティブジャパン（3658）がLINE Digital Frontierと電子書籍事業で業務提携すると発表したことを受け、電子書籍コンテンツが主力で同じくLINEマンガ関連事業を手がける同社に競合による業績への影響を懸念した売りが膨らんだ。

ファストリ5月売上減少

3日、ファーストリテ（9983）が大幅続落。5月の月次動向で既存店売上高が前年同月比0・6%減と12カ月ぶりに前年実績を下回ったことが嫌気された。客数は19・2%増と大きく伸びる一方、客単価が同16・6%低下した。休業店舗数は昨年に比べて少なかったものの、緊急事態宣言のエリア拡大や期間の延長により、月末にかけて外出自粛ムードが強まったことに加えて、商品のニュース性や情報発信が不足していたことで販売に苦戦したとしている。

JR株上値追い私鉄も買い

JR東日本（9020）、JR西日本（9021）、JR東海（9022）のJR株が上値を追い、東武鉄道（9001）や東急（9005）など私鉄株にも買いが広がった。新型コロナワクチンの普及が加速、接種は1000万人を超え、今後、高齢者や医療従事者以外にも接種が進むと見られ、経済活動正常化期待の高まりから買戻しが続いた。

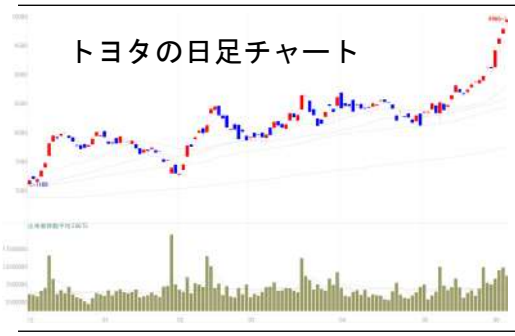
＋技術力
立花エレテックは電機・電子の「技術商社」です。
トータルソリューションで価値ある未来を創造します——。
おかげさまで100周年
100th ANNIVERSARY SINCE 1921
Internet of Things　機械間通信
IoT/M2M技術で
製造業の生産性向上を支援!

創業100周年、その先へ
株式会社立花エレテック
TACHIBANA ELETECH
東証第一部（証券コード：8159）
本社／〒550-8555 大阪市西区西本町1-13-25 TEL:06-6539-8800
支社／東京・名古屋
支店／東関東・北関東・神奈川・三河・東海・北陸・三重・滋賀・南大阪・神戸・姫路・広島・四国・九州
海外／香港・シンガポール・台湾・上海・タイ・マレーシア
北京・深圳・武漢・大連・青島
事業内容／FAシステム事業・半導体デバイス事業
施設事業・MS事業・海外事業
https://www.tachibana.co.jp/

トヨタは連日の最高値

午後の豊田社長会見に関心

トヨタ自動車（７２０３）が大商いで連日の最高値更新、１万円大台に迫ってきた。１株を５株への株式分割と発行株の１・４６％にあたる４１００万株の自社株買いの発表を機に人気を集めており、３週間で株価は約１５％上昇した。ＥＶやＨＶなどの電動化による脱炭素戦略でも業界のリーダーで、きょうは午後に予定されている日本自動車工業での豊田章男社長の会見が関心を集めた。



アルチザは出尽し感

週末４日、**アルチザネットワークス**（６７７８）は大幅反落。２１年７月期第３四半期累計の連結営業利益７億８９００万円（前年同期比２・５倍）で着地した。ただ、通期予想は７億８０００万円から７億８９００万円（前期比７９・９％増）へ増額幅がわずかで出尽くし感につながった。

転ばぬ先のテクニカル

トヨタ人気が命運握る

先週の東京株式市場はマチマチの展開でした。日経平均は反落しましたが、ＴＯＰＩＸは３週続伸となりました。ＴＯＰＩＸを牽引したのは好決算と自社株買いに加え、株式分割を発表したトヨタ自動車です。ＴＯＰＩＸは上値レジスタンスラインに接近してきました。１９７０ポイント近辺をブレイクすれば上昇トレンドが発生します。

問題はトヨタ自動車人気が続くかどうか、そして時価総額上位銘柄への物色が広がるのかどうかです。東証１部の売買代金は増えたと言えども活況の目安となる３兆円を超えることはありません。しかも、トヨタ自動車１社で１兆円超の商いがあるために裾野が広がらなければ閑散相場に戻ってしまいます。サマーラリーのためには大型株物色が必要です。逆に新興市場は６月ＩＰＯが記録的な数に上るため、人気離散の可能性があり注意が必要でしょう。

日々勇太朗

企業観察　日本トリム（6788）

健康訴求で今期最高益

日本トリム（６７８８）の今２年３月期は会計基準変更で単純比較はできないが、連結売上高で１７５億８０００万円、営業利益で２７億円、純利益で１８億１００万円と、前期の売上高１４９億１１００万円、営業利益２１億８７００万円、１５億２３００万円に対して、大幅な増収増益かつ最高業績を見込んでいる。

コロナ禍で職域セミナーの回数が減少しているものの、ＷＥＢマーケティングの強化で胃腸症状改善効果の認可を受けている整水器の認知が進み、「対面営業でもＷＥＢとの相乗効果がでている」（会社側）という。家庭で簡単に除菌水ができる貯槽式次亜塩素酸水生成器「ＴＲＩＭ ＪＩＡ」を６月２日に発売、次亜塩素酸水に関するＪＩＳ規格に適合した日本初の製品で、新型コロナウイルスを２０秒で９９・９５％以上、４０秒で９９・９９％以上不活性化することを確認、注目を集めそうだ。

加えて６月２５日に子会社の**ステムセル研究所**（７０９６）が東証マザーズに公開する。臍帯血を保管する「さい帯血バンク」では国内圧倒的シェアを誇り、上場で「さい帯血バンク」の重要性など認知度向上による事業拡大を図る。

子会社ステムセル研究所上場へ

前週の動意銘柄

サニクス4カ月ぶり高値

サニックス（４６５１）が急伸、４カ月半ぶりに年初来高値を更新した。「政府は脱炭素社会の実現に向けた住宅・建築物の対策案を示した」と伝わった。国や自治体が公共建築物をつくる場合は原則として太陽光発電設備を設置し、再生可能エネルギーの導入量を増やし、脱炭素の取り組みを促すとしており、太陽光発電設備の需要拡大を期待した買いが向かった。

富士石は村上系買増し

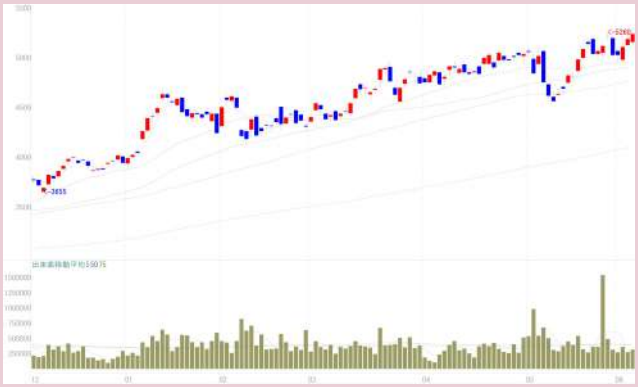
富士石油（５００７）が急伸。旧村上系投資ファンドのシティインデックスイレブンスが３日に提出された変更報告書によると持ち株比率が５・０３％から６・２０％へ上昇した。

チャートから読む騰落銘柄

OLC（4661）

大規模ワクチン接種による経済活動正常化を先取る動きで５月１３日の１万４６００円を底に上昇し、６月２日には７５日を突破。先行き緊急事態宣言解除となれば２月１８日高値１万８６４０円が視野に。

栗田工業（6370）



５月２８日に最高値５２６０円を付けてから、２５日線レベルまで押し目を入れ切り返す。半導体向け超純水製造装置が伸び業績は好調、信用倍率０．８７倍の好取組も株価を押し上げ、青空相場を一段高へ。

東鉄工業（1835）

５月２４日の２６０７円を高値に下落基調継続。６月２日の２２９０円で一旦は下げ止まるも主要顧客であるＪＲ東の建築・土木工事は低調で、戻り鈍ければ２０１４年以来の２０００円割れも意識。

JTOWER（4485）

先行投資負担による大幅減益予想を嫌気、新株式発行による需給圧迫も警戒され、急落のあとも底練りが続く。成長期待の強さから信用買い残の整理が進まず、２５日線の急降下で、底割れ回避へ正念場。

※チャートは日足

特選銘柄

日本精線（５６５９）

今期47％営業増益見込む

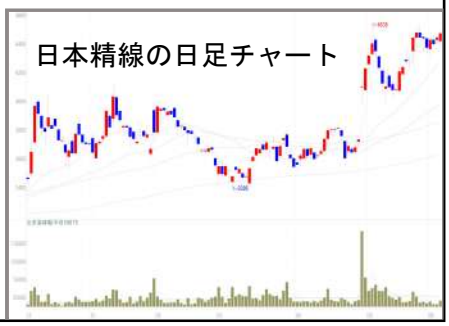
ＮＡＳｃｌｅａｎなど需要堅調

日本精線（５６５９）はステンレス鋼線のトップメーカーで、ナスロン（金属繊維）などの高機能製品や高合金ワイヤなどの独自製品を供給している。

４月２７日に発表した前２１年３月期決算は連結売上高で３４１億８００万円（前の期比２．３％減）、営業利益で２３億８０００万円（同２３．５％増）、純利益で１８億２５００万円（同３０．８％増）と大幅な増益を達成した。高機能・独自製品の売上比率が相対的に高い水準で推移したことに加え、ステンレス鋼線の販売数量の回復による粗利増なども利益を押し上げている。

続く今２２年３月期は売上高で３９０億円（前期比１４．３％増）、営業利益で３５億円（同４７．１％増）、純利益で２４億５０００万円（同３４．２％増）と大幅な増収増益を計画。コロナ禍の収束時期が見通せない中で不透明要因が多いものの、高機能・独自製品は太陽光パネル製造で必要となる極細線やＩＴ社会を支える半導体の製造装置に組み込まれる超精密ガスフィルター（ＮＡＳｃｌｅａｎ）など、サステナブルな社会において底堅い需要があると考えている。今年度からスタートする「中期経営計画（ＮＳＲ２３）」では新製品開発と新市場開拓、水素を巡る新事業の探索などを進め、目標最終年度の２０２４年３月期に売上高４２０億円を目指す。

中計目標売上高４２０億円



潮流

日本“復活„へ始動!!

世界と闘う体制づくりに挑む

量子技術やワクチン、教育も

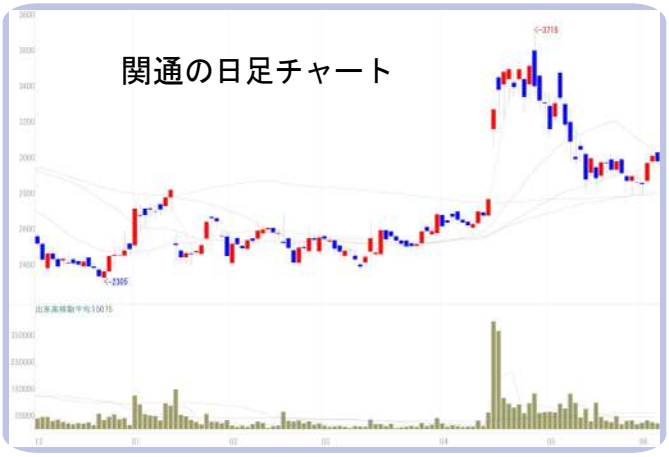
岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール

１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」にて約１万人の参加者の中から優勝。直近では２０１７年１月に始まった夕刊フジ主催の「株・１グランプリ」において優勝。１カ月間における３銘柄の合計パフォーマンスでは１５５％と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

日本は１９９０年のバブル崩壊から３０年間、あまりにも多くのものを失った。株価の暴落は企業の衰退をもたらし、国力が弱体化した。世界に誇っていた技術力も低下し、中国に抜かれる有様だ。学力の低下は日本存亡の危機だ。しかし、ようやく政府は再び日本を復活させる取り組みに動き始めた。その一つ、次世代テクノロジーである量子技術で日本の有力企業が手を組む。

量子技術は素材開発や人工知能（ＡＩ）の利用に革新をもたらす可能性を秘め、国の安全保障や経済力を左右しかねない。米中に出遅れている新分野で競争力を発揮できる市場を築けるか。ＮＴＴ、日立、富士通、トヨタを中心に１１社が参加し、世界と闘う体制づくりに挑む。開発には高度なものづくりの技術が必要だ。

量子通信・暗号のハードウエアの関連特許では東芝が１０４件で首位、ＮＥＣは８８件で３位に位置する。量子暗号通信事業の世界市場が３５年度に約２００億ドル（約２．２兆円）に拡大する見込み。ただ、実用化で出遅れており、通信関連の世界市場の大半は中国が占めている。半導体、携帯電話、薄型テレビなど、日本が優れた技術をもちながら競争に敗れた事例は多い。



過去の反省を生かし、量子技術を普及させるにはインフラ整備や標準化などで政府と連携して競争に勝ち抜かねばならない。

また、政府はワクチン開発・生産体制を強化する戦略を閣議で決めた。国産ワクチンの研究開発支援や薬事承認の迅速化を進め、新たな感染症の大流行などの有事に備える。菅首相は「ワクチンを国内で開発・生産し、速やかに接種できる体制の確立を急ぐことが危機管理上、極めて重要だ」と述べた。

また、２０２０年度から始まった高等教育の修学支援制度は大学・短大・高専・専門学校などの学生を対象に授業料減免と給付型奨学金によって低所得層の支援を行う。両者合わせて１人当たり最高年額約１９０万円、予算規模で約５８００億円（２１年度）という大型の制度だ。新制度は始まったばかりだが、既存の貸与奨学金をも含めた制度全般の見直しの議論が活発化することを期待したい。この様な菅政権の取り組みは必ず株式市場に評価される。日本が変る時に、株価は最も上昇する。

潮流銘柄は**関通**（９３２６）、**ロゼッタ**（６１８２）、**いつも**（７６９４）。

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

思惑呼ぶJPモルガンの売り

政治的リスクも要因？

先週の日経平均は前週比末約２０７円安と３週間ぶりに下落した。一方、ＴＯＩＰＸは前週比末約１１・７５ポイント高となるなど方向感の無い展開であった。

先週、市場で話題となったのがＪＰモルガンのＴＯＰＩＸ先物売りである。３１日に８０００枚売り越し、１日には４００枚売り越した。ＪＰモルガンは主に長期投資の年金などの注文を受けることが多いので、４カ月程度で売却するのは年金ではなくヘッジファンドの建玉ではないかと思われている。建玉は推定で２万枚以上あるが、２月に日経平均が３万円を付けた時の火付け役がＪＰモルガンの買いだったので、その証券会社の大量売りが色んな思惑を呼んでいる。

４カ月程度で売却するのはヘッジファンド

欧米の株価の推移をみるとワクチン接種率の増加に伴い株価も上昇してきた。日本株もそのような動きになるとの期待は大きい。現状、相場は５月１３日の安値（２万７３８５円）を起点とし、順調に戻り相場を形成している。

しかし、国民の約８０％が反対や延期を希望しているオリンピックの開催を強引に進めようとしている政府に対し国民の不満は募っており、秋に行われるだろう選挙の波乱も想定されるようになったきた。そんな政治的リスクも売りの要因になっているのかもしれない。日銀のＥＴＦ購入スタンスが変更になった現状では今後さらに外資系証券会社の動向が注目されることになろう。

NYダウの日足チャート

チャート的には５月１３日の安値を起点にきれいな右肩上がりの戻り相場を形成中。下値トレンドライン（２万８７５０円処）ではきっちり止まっており、押し目買いが入っている証拠であろう。このラインを下回らない限りは押し目買いが有効である。しかし、上値も７５日線（２万９２１７円処）、１３週線（２万９２０６円処）を抜けてきておらず、この水準を明確に抜けてくるかがポイントであろう。また、一目均衡表の雲の下限（２万９２０３円処）もこの水準に位置するため、抜けてくれば雲の上限（２万９５１１円処）まで上昇する形となろう。

日経225先物の日足チャート

今週は６月限のメジャーＳＱ週である。３月ＳＱ値（２万９２８２円４１銭）を意識した展開となろう。相場レンジは２万８７００円～２万９５００円を想定。底堅い展開を予想する。

（ハチロク）

星野三太郎の株街往来

～日本企業の現状～

緊急事態宣言の影響で自宅にいる機会が増えてしまったので、生活に刺激を与える意味でスマートスピーカーを購入してみた。スピーカーに問いかけると返事をしてくれるスピーカーは以前から話題になっていたが、１万円以上も出費してまで買う理由もなかった。しかし、モデルチェンジで旧機種が破格で在庫処分していたのでＧｏｏｇｌｅ Ｎｅｓｔ Ｈｕｂを迷わず購入した。

セットアップはスマホ経由で簡単で、滑舌が悪い筆者の声でも大方は認識してくれる。天気や聞きたい曲、料理の仕方はもとより、冗談を言ってもアドリブで応えてくれるので、筆者よりスマホやＰＣが苦手な家族の方が気に入って使っている。

スマートスピーカーを体験してみて改めて感じたことは、このような便利なＩＴ機器を日本のメーカーが販売しないこと。高画質なＴＶやＤＶＤレコーダーなど高機能な家電が続々と販売されてきたが、幅広い層に利用してもらうには、使い勝手を追求することと価格が重要だ。今や半導体など部品を供給することしかできなくなった日本企業の現状に不安を感じた。

企業レター

効率は最大2倍に向上

大和ハウス工業

施工現場用溶接ロボットを開発

大和ハウス工業（１９２５）とフジタ、十一屋工業は、角形鋼管柱の施工現場用溶接ロボットシステム「ＳＷＡＮ（スワン）」を開発した。

「ＳＷＡＮ」は、溶接技能者の角形鋼管柱継手における溶接効率を最大２倍まで向上できるロボットシステム。１作業班（溶接技能者１名と作業補助員１名）が角形鋼管柱に対して２台のロボット（１セット）を対向配置して、４台のロボットを運用。市販の汎用６軸多関節型ロボットアームを組み込んだことで、溶接技能者の作業を再現しながら１日当たり最大約１６０ｍの溶接が可能になる。これまでに同社の建設現場で適用した結果、良好な溶接品質を確認した。

施工現場用溶接ロボットシステム「ＳＷＡＮ」

日本トリム

透析医学会総会で展示

新型透析用水作製装置を発売

日本トリム（６７８８）は電気分解により分子状水素（Ｈ２）を含有する電解ＲＯ水を生成するシステムの新製品「電解水透析個人用透析用水作製装置ＥＷ-Ｐ３１-ＨＤ」を開発。６月４日に開催された第６６回日本透析医学会学術集会・総会で展示し、同日から販売を開始した。

透析時に使用する水量が増加傾向にある現状に合わせ、造水能力を従来機より増加し、造水量増加に対しても安定した高濃度水素を生成。熱水消毒の範囲を拡大し、ＲＯ装置から透析装置までの供給ラインを５ｍまでカバーできるようになり、透析液の清浄化に貢献している。また移動しやすい大型キャスターを採用し、漏水遮断弁および信号灯（オプション）など、ユーザーからの要望が多かった各種機能を搭載している。

EW-ＳＰ３１-ＨＤ

記者の視点

相場見通し

米消費者物価を注視

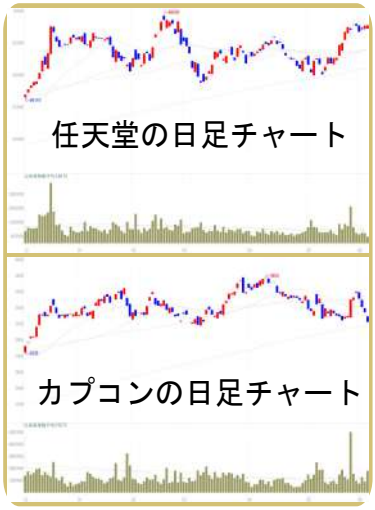
メジャーSQ前に仕掛けも警戒

6月第1週の東京市場は上値が重い動きとなった。日経平均は5月13日の2万7385円03銭を底にジワリと戻してきたが、5月28日に付けた2万9194円11銭が天井となり、週末4日は2万9000円を割れて引けている。

日本国内ではワクチンの大規模接種が進み経済活動正常化への期待から**JR東日本**（9020）などの鉄道各社や**JAL**（9201）や**ANA**（9202）の空運、内需系などが上値追いとなったが、指数構成銘柄では**ソフトバンクグループ**（9984）や**ファーストリテイリング**（9983）など一部の主力株が弱い動きとなっている。3万円へ向けて上値を追うには材料不足であり、NY市場では米長期金利上昇を受けて高PERのグロース株を中心に売りがでていることも警戒感を強めている。これに加えてバイデン政権が米国人による中国投資規制を強化することも米中対立懸念から上値を重くしている。

今週は9日に発表される米5月消費者物価指数。4月比で一段の伸びが予想されており、市場予想を上回る内容であればインフレ警戒から株安に繋がる可能性がある。11月のメジャーSQを前にして先物を通じての仕掛け的な動きにも注意したい。この他でも10日のECB理事会、11日からのG7サミットなど重要イベントが目白押しだ。

個別では12日から世界最大のゲームイベントである米国のE3が12日からオンラインで開催される。**任天堂**（7974）や**カプコン**（9697）、**スクウェア・エニックス・ホールディングス**（9684）に注目。



今週のスケジュール

- ４日　G7財務相会合が対面で開催(～5日ロンドン)、イエレン米財務長官出席
  米5月雇用統計(21:30)
- ７日　4月景気動向指数(14:00)
  中国5月貿易収支
- ８日　1-3月期GDP確報値(8:50)
  5月景気ウォッチャー調査(14:00)
  30年国債入札
  独6月ZEW景況感指数(18:00)
  米4月貿易収支(21:30)
- ９日　5月マネーストック(8:50)
  中国5月消費者物価、中国5月生産者物価(10:30)
  米10年国債入札
- 10日　5月国内企業物価指数(8:50)
  5月都心オフィス空室率(13:00)
  ECB定例理事会(ラガルド総裁会見)
  米5月消費者物価(21:30)
  米30年国債入札
- 11日　4-6月期法人企業景気予測調査(8:50)
  メジャーSQ算出日
  G7コーンウォールサミット(英国南部)(～13日)

編集後記

高齢の父親と二人暮らしだった友人がプロポーズしていた女性と再婚した。友人は温厚で優しく控え目なタイプ、ただ、異性とほとんど縁がなく、初婚もお見合いだった。よく話を聞いてみると相手の女性は行きつけの店で結構人気のあったホステスで、休業要請の長期化で仕事を失ったらしい。コロナ禍が幸いしたと友人は笑うが、入籍しないことが結婚の条件という。

東京市場はワクチン接種加速により今後の経済正常化を織り込む動きだが、友人を含めコロナ終息後に落とし穴がないか気になる。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。